

# 日本学術会議 国際対応分科会 自己点検報告書

国際対応分科会(小委員会) 名 IEA分科会

更新日 2011/9/12

(2009/05/01の形式)

## 国際学術団体に関する事項

国際学術団体名

(和文) 国際経済学会

(欧文) International economic association

(略称) IEA

日本学術会議加入年(西暦) 1969 年

運営組織の名称・役員の構成等

運営組織の名称(欧文) Executive Committee

	会長	会長代理/次期会長	副会長	事務局長
(氏名)	Masahiko Aoki	Joseph Stiglitz	Eytan Sheshinski	Lucas Papademo
(国)	Japan	USA	Israel	Greece

役員選出方法の概要(120文字程度で記載)

election of the executive committee

加入国・地域の数 60 ヶ国

主要加入国(10ヶ国程度を列举)

Argentina, Australia, Bangladesh, Belgium, Brazil, Bulgaria, China, Colombia, Cuba, Cyprus, Croatia, Czech Republic, Denmark, Ecuador, Egypt, Estonia, Finland, France, Germany, Ghana, Greece, Hong Kong, Hungary, India, Ireland, Israel, Italy, Japan, Kenya, Korea, Lithuania, Mexico, Morocco, Nigeria, Norway, Oman, Pakistan, Paraguay, Peru, Poland, Portugal, Romania, Russian Republic, Slovenia, Spain, Sri Lanka, Sweden, Switzerland, Tunisia, Turkey, Uganda, United Kingdom, USA, Venezuela, Vietnam, Yugoslavia, Zimbabwe.

国際学術団体のホームページURL <http://www.iea-world.com/>

国際学術団体の年間運営経費

日本の分担予定額[事務局で記入] 486千円(2012年度)

## 国際学術団体の活動状況

総会・学術研究集会の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催地	参加者数	日本からの参加者数	学術会議共催/協賛の有無
2008	15th World Congress of the International Economic Association	Istanbul, Turkey	1000	100	
2005	14th Word Congress	Marrakech, Morocco			
2002	13th Word Congress	Lisbon, Portugal			
1999	12th Word Congress	Buenos Aires, Argentina			
2011	16th World Congress	(July 4-8, 2011 at Tsinghua University, Beijing, China)	1200	100	無し

運営に関する会議の開催状況(過去10年間・開催年の新しいものから順に5件まで記載)

開催年 (西暦)	会議の名称	開催場所 (機関等)	参加国数	日本からの代表者名	学術会議の代表派遣

出版物等(主要な定期刊行物・不定期刊行物を刊行頻度とともに箇条書きで記載)

The Economics of Reciprocity, Giving and Altruism (Marseilles, France, December 1997) edited by L. A. Gérard-Varet, S.-C. Kolm and J. Mercier Ythier (Macmillan/Palgrave 2000).

Adjustment and Beyond: The Reform Experience in South Asia (Dhaka, Bangladesh, March/April 1998) edited by Wahidudin Mahmud (Macmillan/Palgrave 2000).

活動状況(各項目につき過去5年間の状況を120文字以内で記載)

<b>国際機関等の提唱で行った活動</b>
IEAは異なる意見を持つ研究者が集まる学会組織であり、IEAの活動は3年に一回開かれる国際学会および国際学会時に合わせて開催国、近隣諸国で開かれるサテライトミーティングに尽きると言って良い。経済学では、このような集まりはIEA以外にはEconometric Societyの世界大会しか存在せず、各国の研究者の意見の交換の場として重要である。
<b>国際機関等への提言等</b>
IEAは異なる意見を持つ研究者が集まっており、IEAとして国際機関に提言を行うことは考えにくい。しかし、時期会長のStiglitz教授（ノーベル経済学賞受賞者）などの発展途上国に関する政策提言は、広く関心が持たれ、国連、世界銀行、IMFなどの国際機関にも強い影響をもたらしている。
<b>国際事業等への参加・実施等</b>
IEAは学会組織であり、IEAが開く3年に一度の国際会議には日本からも多くの研究者が参加している。北京大会には110名が参加した。
<b>全世界的/地域的研究課題への取組み</b>
貧困の問題は常に重要な研究課題であり、IEAを中心に様々な意見の交換が行われている。しかし、IEAは研究者組織であり、政策提案は数多くなされるものの、政策実行のための行動は行っていない。
<b>発展途上国への対応</b>
発展途上国のIEA参加費用を低額にしていること以外には、特に積極的な対応はしていない。ただし、時期会長のStiglitz教授に代表されるように、開発経済学における貢献は大きい。

関連学術分野の動向と今後の重要課題(120文字以内で記載)

IEA北京大会に向け、日本の協力体制を確立し、北京大会への参加を呼びかけた。
--

## 国内における国際学術団体への対応状況

国際学術団体の役員就任状況(過去10年間・新しいものから遡って5件まで記載)

国際学術団体における 役職名	氏名	任期	
		開始年	終了年
president	青木昌彦	2008	2011
round table conference 委員	鈴木興太郎	2005	

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IEA分科会

学術会議以外の国内対応組織・委員会等

--

国内の関連学協会等の状況(主要なもの5件まで記載)

学協会の名称	会員数	学協会のホームページURL
日本経済学会	3500	<a href="http://www.jeaweb.org/">http://www.jeaweb.org/</a>
日本学史学会		<a href="http://jshet.net/modules/contents/index.php">http://jshet.net/modules/contents/index.php</a>

## 学術会議の国際対応分科会(小委員会)の活動状況

学術会議の国際対応分科会(小委員会)名 IEA分科会  
 所属分野別委員会 経済学委員会

### 分科会(小委員会)の構成

委員長	副委員長	幹事	
森棟公夫	奥野正寛	福田慎一	

会員数	連携会員数	特任連携会員数
5	5	

### 分科会(小委員会)の活動方針(箇条書きで120文字以内で記載)

IEAの活動に協力し、日本における連携を強めていく

### 今期の会議開催状況(開催日時の新しいものから遡って6回まで記載)

会議開催日時 (2009/05/01の形式)	主な審議事項・議題等
2011/5/1	メール会議を数回行い、IEAの北京大会への派遣代表を決めた。また、IEAの会則変更案について審議を行った。
2009/4/7	新体制を定めた。奥野先生に副会長を、福田先生に幹事を依頼した。

日本における国際学術団体の活動の周知・広報の状況(箇条書きで120文字以内で記述)

国際対応における国内学協会との連携状況(箇条書きで120文字以内で記述)

日本経済学会との連携は上手くいっており、必要な情報は日本経済学会の理事会などに流れている。日本からの世界大会への参加者などは統計が取れていないが、100に近い研究者が参加した。日本経済学科ならびに経済学史学会(The Japanese Society for the History of Economic Thought)もIEAに関する情報を繰り返し流している。

特記事項・国際委員会による指摘事項等への対応状況(箇条書きで120文字以内で記述)

7月に開催された16th World Congress (July 4-8, 2011 at Tsinghua University, Beijing, China)について、案内を広く行った。

分科会・小委員会活動の自己評価等(箇条書きで120文字以内で記述)

IEA世界大会に関する日本における対応は十分にやっけてきている。ただし、独自の活動は、2005年のround table conference(鈴木)以外には最近では見られない。IEAからの問合せについては、分科会で検討を行い、回答している。